

海中地下洞窟ウンブキ

水中にある石灰岩の洞窟ウンブキへの入り口は、海岸から約 400 メートルのところにあります。洞窟内部の海水には干満があり、このことは海底の下に別の開口部があることを示しています。しかし、専門の潜士による継続的な調査にもかかわらず、この開口部はまだ発見されていません。

石灰岩の岩盤の崩壊によって形成されたウンブキは、メキシコの有名なセノーテという地下水源と地表をつなぐ陥没穴を連想させます。実は、ウンブキはアンキアラインプールという地下洞窟によって海とつながっている内陸水域です。

2018 年に専門の潜士のチームが現地の調査を開始しました。調査ではウンブキが日本最長の水中洞窟であることが確認されたとともに、新石器時代の土器が発見されました。

また、新種のエビを含む珍しい海の生物が見つかり、希少なウンブキアナゴの映像が日本で初めて撮影されました。潜士たちは、この稀有な生息地にもっと未確認の種がいるかもしれないと考えています。しかし、海底の開口部という重要な謎は未解決のままです。その後の調査で別の潜士のチームが、曲がりくねった洞窟を通り抜け、入り口から 700 メートルの地点まで到達しました。この地点までのかなりの部分が海底下を通っているはずですが、それでも外海へつながる箇所は見つかりませんでした。

ウンブキを訪れる人は、入り口とその周辺は自由に見てまわれますが、洞窟でのダイビングは禁止されているので注意してください。